

ＣＳＳとＪＣＳＳから見る日米の学生と大学の教育

学生調査から見る大学の教育

2008年10月25日 同志社大学 山田礼子

学士課程の充実という大きな課題

- × 学士課程教育の構築に向けて各大学が自らの教育理念と学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実することが求められている



B u t

- × 学生の成長をどう測定するのか？
- × 学生の成長の成果と学士課程教育の関係性についての研究蓄積の少なさ

H o w



- × 学生の成長に関する理論構築と測定法である継続的
学生調査の開発 データの継続性と安定性

学生に関する従来の見方

- × 多くの学生調査と研究の蓄積
 - －学生文化研究
 - －労働市場への移行研究
 - －学生の適応研究
 - －学生が獲得した能力研究
- × 大学という環境よりも（カレッジインパクト理論）Nature仮説（能力）とチャーター理論（ブランド）が圧倒的な見方と説明モデル
- × 能力，大学の序列によって学生の獲得した知識，コンピテンシーは大きく影響される

日本における学生調査研究の新たな段階

- × **アウトカム・アセスメントへの要求**
世界的な傾向 欧米, アジア等
- **アウトカム・アセスメントの多様な種類**
 - ・ 学習成果や学業達成の直接アセスメント
 - ・ 分野別直接アセスメント
 - ・ 情緒的側面の間接アセスメント
- × **政策的転換 大学の教育力への期待と要望**
- × **大学という環境への注目**

カレッジ・インパクト理論の重要性の再認識

アウトカム・アセスメントの方法

- × アウトカム・アセスメント＝ラーニング・アウトカムを測定するには？
- × 2つの方法の存在



直接評価＝ダイレクト・エビデンス＝**学習成果の評価**

内容＝科目試験，レポート，プロジェクト，ポートフォリオ，卒業試験，卒業研究や卒業論文，標準試験

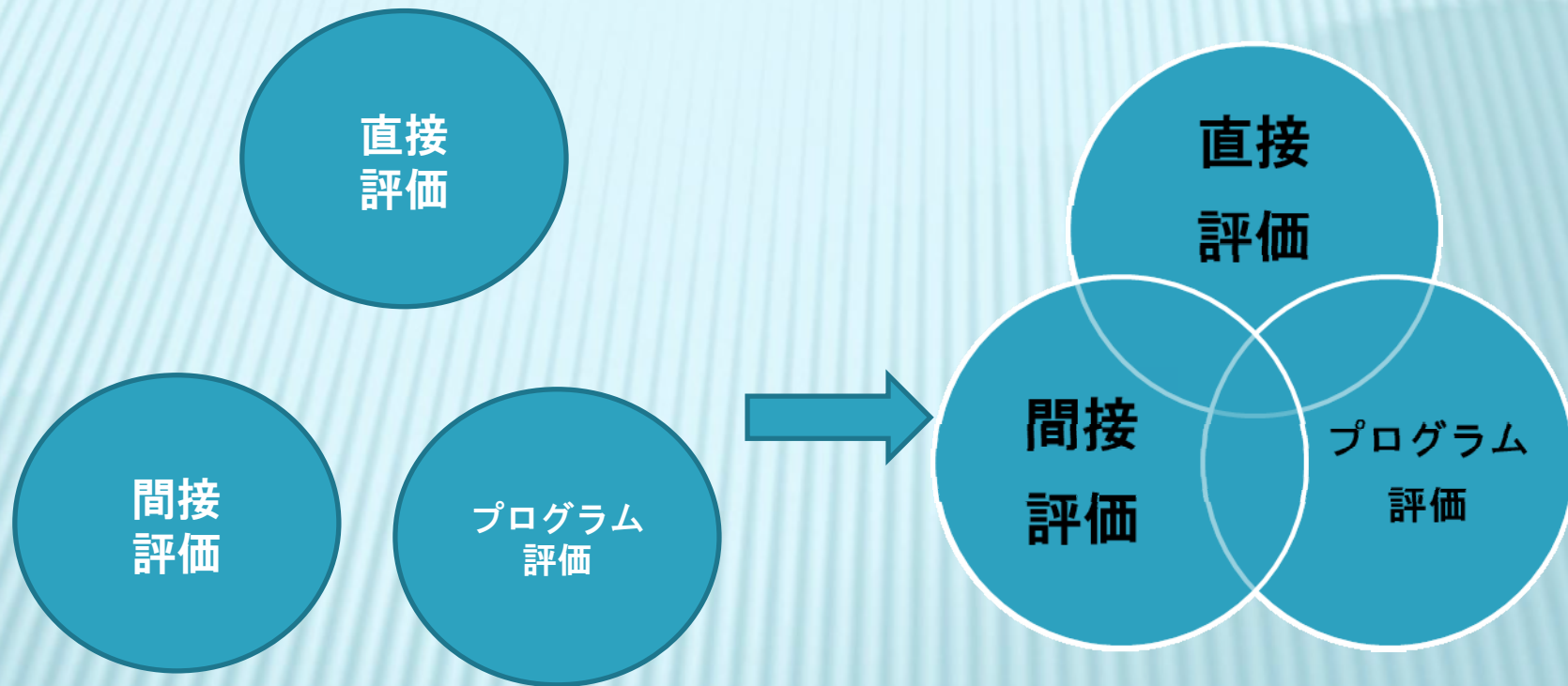
分野＝一般教育，専門分野別

間接評価＝インダイレクト・エビデンス＝**学習プロセスの評価**＝学習行動，生活行動，自己認識，大学の教育プログラムへの満足度等成果にいたるまでの過程

内容＝学生調査，卒業生調査等

時期＝入学時，1年次終了時，上級学年時，卒業後

アウトカム・アセスメントの効果



評価が連携していない場合

評価が連携している場合
効果があられやすい

直接評価と間接評価の組み合わせ

- × 直接評価結果とプロセス評価としての間接評価結果の組み合わせによって大学生活を通じての学生の成長に関する精緻な結果につなげる



- × **アメリカ**

大学生活を通じての学生の成長の理論の構築と研究の蓄積

カレッジ・インパクト研究が精緻化

アスティン I-E-Oモデル Involvement（関与）理論

クー（NSSEの考案者） Engagement理論

ティント 退学モデル

パスカレラ 結果モデル



実践とアクレディテーションへの対応に応用化

I R（機関研究）の進展

長期的なリサーチプログラムにおける 学生調査とアセスメントの利用方法

× 調査モデル



HERI (UCLA 高等教育研究所)
が開発した学生調査

○ YFCYとCSSの意味

CIRP Freshman Surveyのフォローアップ調査
3分の1の内容がポストテスト
学生のデータの照合が可能
個別にも使用可能

日本版大学生調査

- JCSS2005, JCSS2007, JFS2008が依拠するモデル
＝アスティンのI-E-Oモデルとパスカレラの
結果モデル
- 試行調査を経てより教育成果と環境要因の部分

を整理した分析枠組みへ

- 関与理論を焦点化＝学習プロセスとそれらを
促進する教員，学生の関わりとの関係性

学生の経験（学習経験、生活経験、教師との関わり、
大学内外での経験）と教育成果の関係性の解明に取り組む

日本版学生調査プログラムの開発



JFS(新入生調査)

JCSS (上級生調査)

- ① 大学教育改革のために役立つ
- ② 入学志願のマーケティングに役立つ
- ③ アクレディテーション対策として役立つ
(間接評価エビデンスとして有効 低コスト)
- ④ ベンチマークとして役立つ
- ⑤ 国際比較ができる

データについて

× CSS2005

調査対象 米国の4年制大学に在学している3年から4年になる学生30188人
(男性11,367人, 女性18,821人)

× JCSS2005

調査対象 国公立大学 8校3961名
調査時期 2005年10月-2006年1月

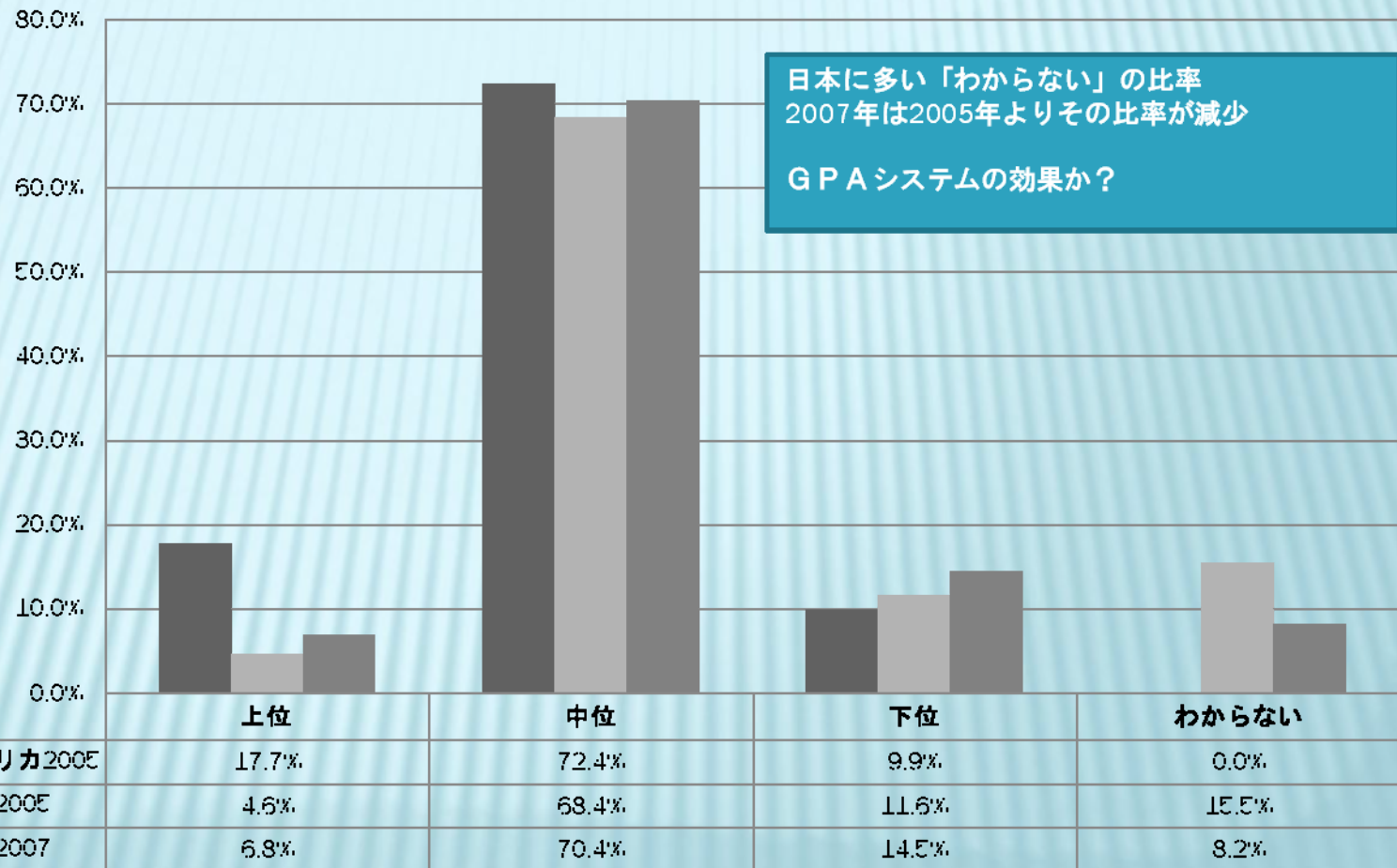
| 大学 | 国立 | 私立 | 合計 |
|------|------|------|------|
| A(理) | 680 | 0 | 680 |
| B(理) | 239 | 0 | 239 |
| C(理) | 97 | 0 | 97 |
| A(文) | 384 | 0 | 384 |
| C(文) | 211 | 0 | 211 |
| D(文) | 0 | 237 | 237 |
| E(文) | 0 | 611 | 611 |
| F(文) | 0 | 237 | 237 |
| G(文) | 0 | 644 | 644 |
| H(文) | 0 | 365 | 365 |
| 合計 | 1611 | 2094 | 3705 |

× JCSS2007

調査対象 国公立大学16校6228名
調査時期 2007年12月-2008年1月

| 大学名 | 国立 | 公立 | 私立 | 短期大学 | 合計 |
|-----|------|------|------|------|------|
| A | 621 | 0 | 0 | 0 | 621 |
| B | 95 | 0 | 0 | 0 | 95 |
| C | 52 | 0 | 0 | 0 | 52 |
| D | 468 | 0 | 0 | 0 | 468 |
| E | 313 | 0 | 0 | 0 | 313 |
| F | 0 | 450 | 0 | 0 | 450 |
| G | 0 | 2146 | 0 | 0 | 2146 |
| H | 0 | 0 | 33 | 0 | 33 |
| I | 0 | 0 | 85 | 0 | 85 |
| J | 0 | 0 | 393 | 0 | 393 |
| K | 0 | 0 | 199 | 0 | 199 |
| L | 0 | 0 | 322 | 0 | 322 |
| M | 0 | 0 | 475 | 0 | 475 |
| N | 0 | 0 | 227 | 0 | 227 |
| O | 0 | 0 | 0 | 182 | 182 |
| P | 0 | 0 | 0 | 167 | 167 |
| 合計 | 1549 | 2596 | 1734 | 349 | 6228 |

国際比較ができる

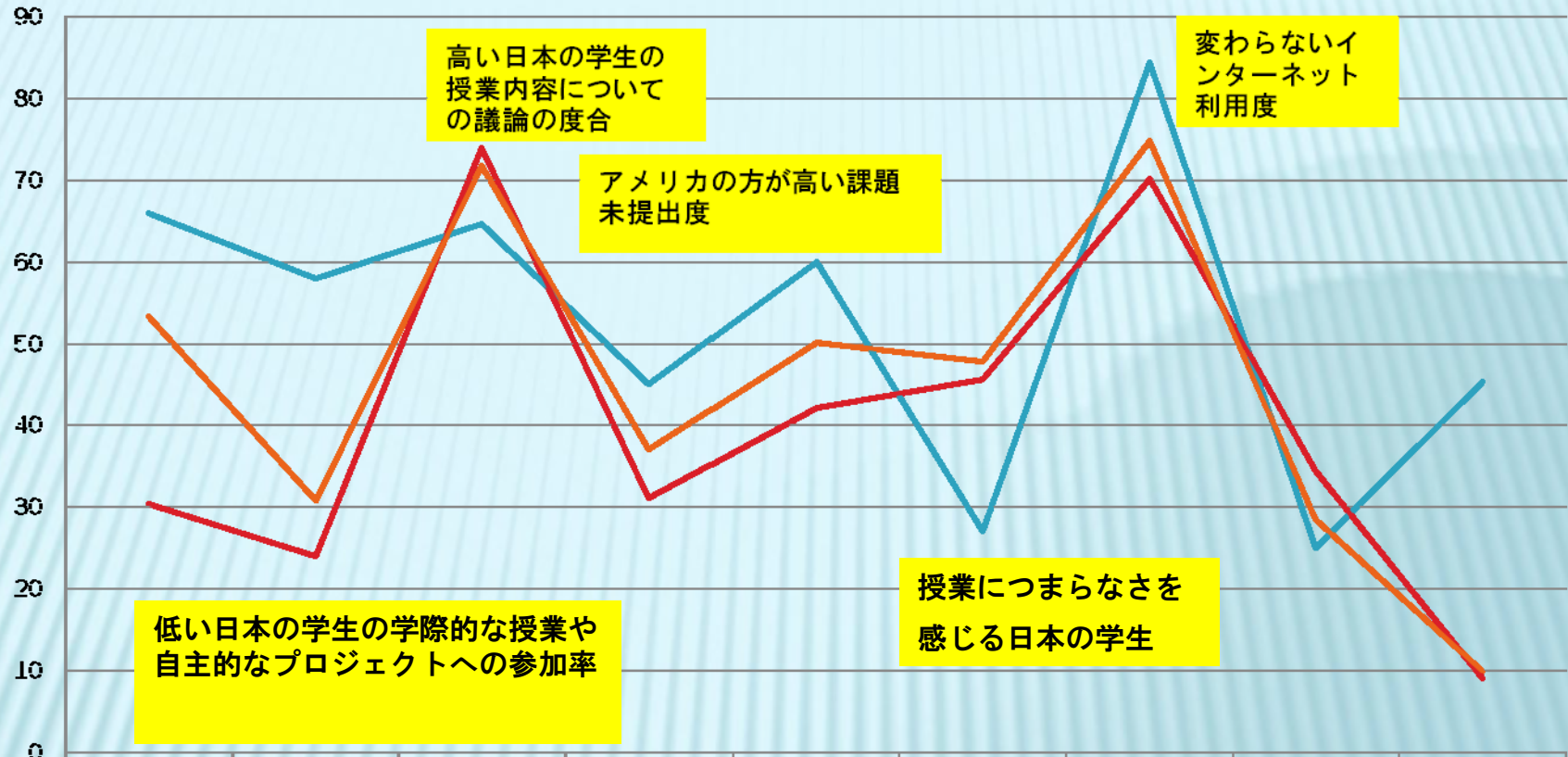


日本に多い「わからない」の比率
2007年は2005年よりその比率が減少

GPAシステムの効果か？

見えてくる課題＝成績に無関心の日本の学生 この現象をどうとらえるか？

大学での経験の日米比較



| | 学際的な授業を履修した | 自主的な学習プロジェクトへの参加 | 授業の内容について他の学生と議論 | 大学教員と懇親会 | 提出期限までに宿題を完成できなかった | 授業をつまらなく感じた* | 研究や宿題のためにインターネットを利用した* | アルバイトや仕事で授業に出席できなかった | チューターとして他の学生の学習補助をした |
|------------|-------------|------------------|------------------|----------|--------------------|--------------|------------------------|----------------------|----------------------|
| — アメリカ2005 | 66 | 58 | 64.6 | 45 | 60 | 27 | 84.4 | 25 | 45.3 |
| — 日本2005 | 30.4 | 24 | 73.9 | 31.1 | 42.1 | 45.7 | 70.1 | 34.4 | 9.1 |
| — 日本2007 | 53.4 | 30.9 | 71.8 | 37.1 | 50.2 | 47.9 | 74.9 | 28.6 | 10 |

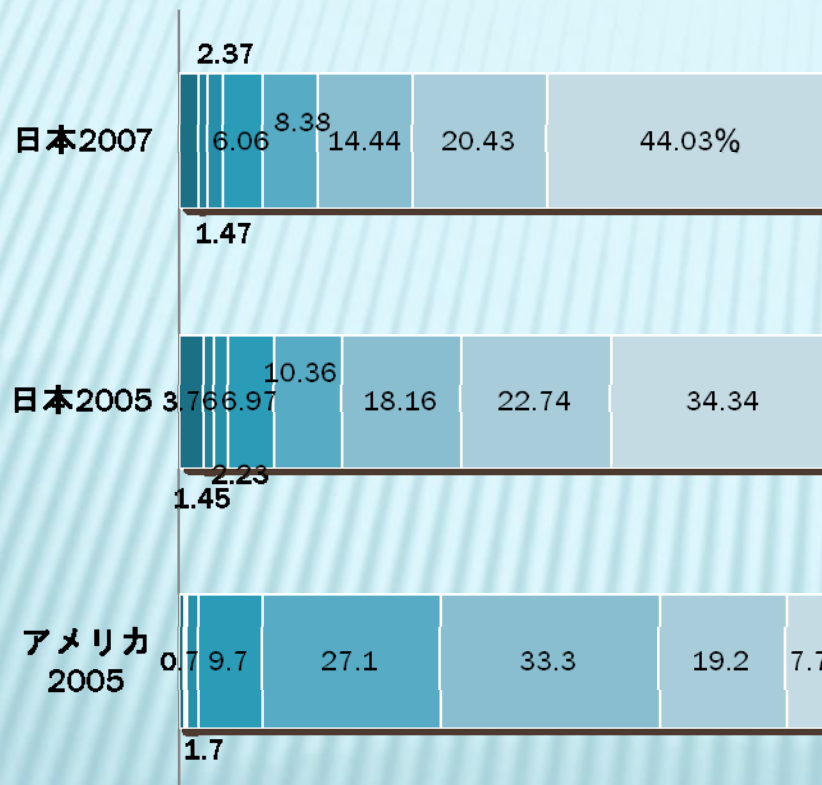
継続的データからわかる大学での経験度が進展する日本の大学
 アメリカの学生よりも大学での経験度が低い日本の学生
 教員のFDの必要性を提示か

たびたびした+たまにしたの比率

単位の実質化に大きな課題がある日本の大学？

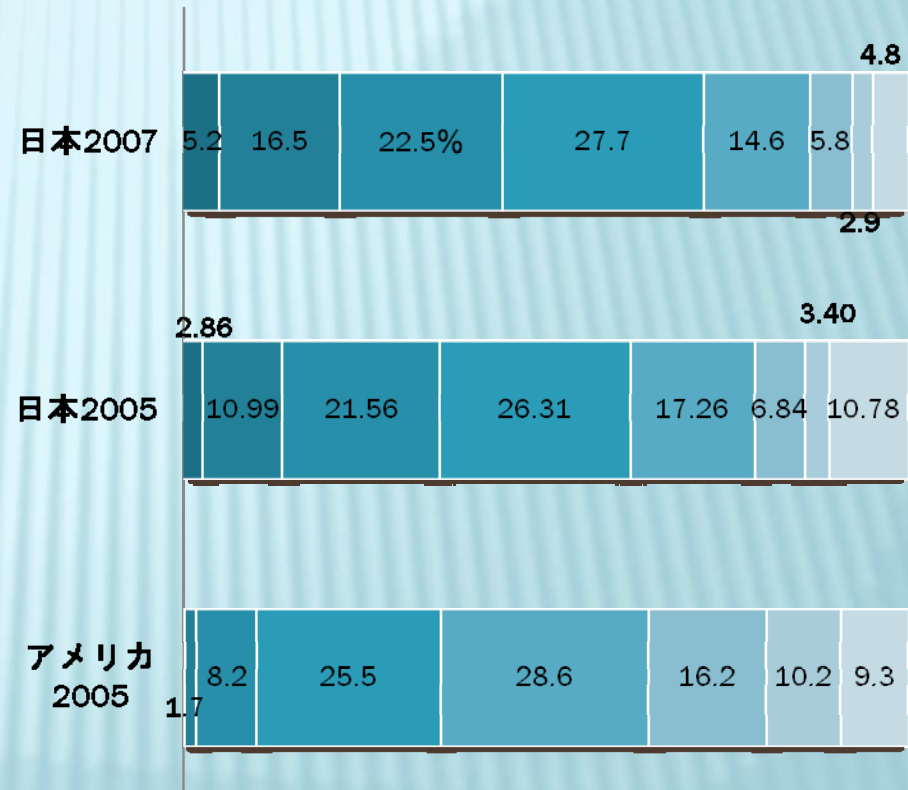
授業や実験への出席時間

- 全然ない
- 1時間未満
- 1～2時間
- 3～5時間
- 6～10時間
- 11～15時間
- 16～20時間
- 20時間以上



授業時間以外の勉強時間や宿題時間

- 全然ない
- 1時間未満
- 1～2時間
- 3～5時間
- 6～10時間
- 11～15時間
- 16～20時間
- 20時間以上

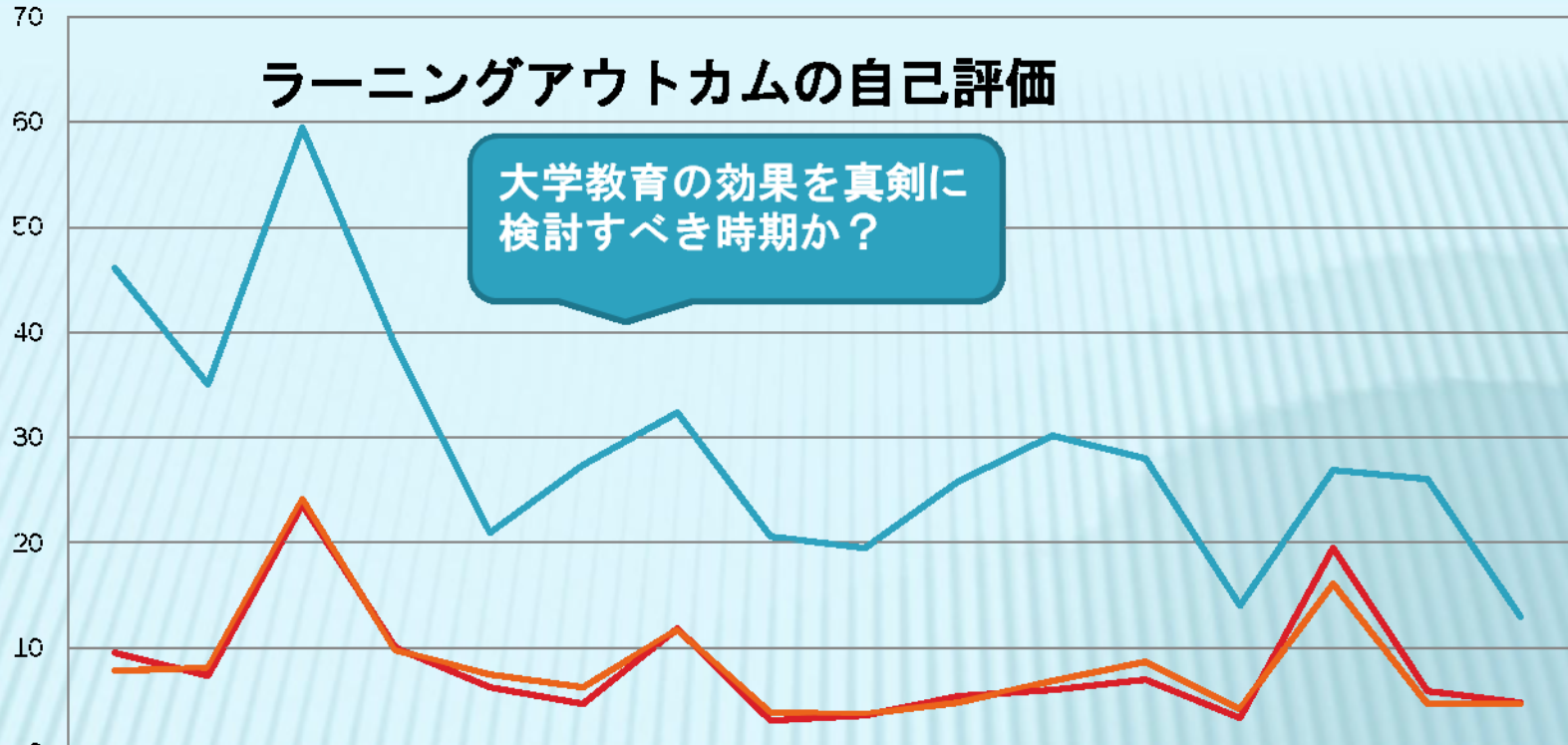


授業や実験への出席時間の多い日本の学生
授業時間以外の勉強時間の短い日本の学生

継続データでも短縮されていない
継続データでも増加していない

ラーニングアウトカムの自己評価

大学教育の効果を真剣に検討すべき時期か？



| | 一般的な教養 | 分析や問題解決能力 | 専門分野や学科の知識 | 批判的に考える能力 | 異文化の人々に関する知識 | リーダーシップの能力 | 人間関係を構築する能力 | 異文化の人々と協力する能力 | 地域社会が直面する問題の理解 | 国民が直面する問題の理解 | 文章表現の能力 | プレゼンテーションの能力 | 数理的な能力 | コンピュータの操作能力 | グローバルな問題の理解 | 外国語の能力 |
|----------|--------|-----------|------------|-----------|--------------|------------|-------------|---------------|----------------|--------------|---------|--------------|--------|-------------|-------------|--------|
| アメリカ2005 | 46.1 | 35.1 | 59.5 | 38.7 | 21 | 27.5 | 32.4 | 20.7 | 19.5 | 25.9 | 30.2 | 28.1 | 14.1 | 27 | 26.1 | 13 |
| 日本2005 | 9.5 | 7.3 | 23.6 | 10 | 6.2 | 4.7 | 11.8 | 3.1 | 3.6 | 5.4 | 6 | 7 | 3.3 | 19.5 | 5.9 | 4.8 |
| 日本2007 | 7.8 | 8.1 | 24.1 | 9.8 | 7.5 | 6.2 | 11.7 | 3.8 | 3.7 | 4.8 | 6.8 | 8.7 | 4.2 | 16.1 | 4.7 | 4.7 |

大きく増えたの比率

コンピュータの操作能力を除けば低い日本の学生のラーニング・アウトカムの自己評価
 継続的データでそれほど変化のない日本の学生のラーニング・アウトカムの自己評価
 サンプル大学は異なるけれども一般化できるデータとしての意味？

自己評価の低い傾向のある日本の学生，高い傾向のあるアメリカの学生 どれくらいが適正水準か？

大学教育改革のために役立つ
入学志願のマーケティングに役立つ
アクレディテーション対策として役立つ
ベンチマークとして役立つ

全国16大学の結果(JCSS2007)

| | 不本意入学群 | 学業充実群 | 大学エンジョイ | 入学後燃え尽き |
|---------|--------|-------|---------|---------|
| 全国平均 | 0.325 | 0.263 | 0.259 | 0.153 |
| A大学(国立) | 0.342 | 0.267 | 0.241 | 0.150 |
| B大学(国立) | 0.246 | 0.275 | 0.298 | 0.182 |
| C大学(国立) | 0.069 | 0.256 | 0.485 | 0.190 |
| D大学(国立) | 0.253 | 0.303 | 0.279 | 0.165 |
| E大学(国立) | 0.210 | 0.248 | 0.329 | 0.213 |
| F大学(公立) | 0.336 | 0.221 | 0.226 | 0.217 |
| G大学(公立) | 0.470 | 0.240 | 0.170 | 0.120 |
| H大学(私立) | 0.166 | 0.365 | 0.312 | 0.157 |
| I大学(私立) | 0.161 | 0.324 | 0.366 | 0.150 |
| J大学(私立) | 0.531 | 0.189 | 0.127 | 0.154 |
| K大学(私立) | 0.062 | 0.424 | 0.401 | 0.113 |
| L大学(私立) | 0.323 | 0.265 | 0.248 | 0.164 |
| M大学(私立) | 0.261 | 0.331 | 0.271 | 0.137 |
| N大学(私立) | 0.362 | 0.320 | 0.206 | 0.112 |
| O短大(私立) | 0.408 | 0.245 | 0.162 | 0.185 |
| P短大(私立) | 0.343 | 0.288 | 0.186 | 0.183 |



| | A大 | B大 | C大 | D大 | E大 | F大 | G大 | H大 | I大 | J大 | K大 | L大 | M大 | N大 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ◆ 不本意入学群 | 0.342 | 0.246 | 0.069 | 0.253 | 0.210 | 0.336 | 0.470 | 0.166 | 0.161 | 0.531 | 0.062 | 0.323 | 0.261 | 0.362 |
| ■ 学業充実群 | 0.267 | 0.275 | 0.256 | 0.303 | 0.248 | 0.221 | 0.240 | 0.365 | 0.324 | 0.189 | 0.424 | 0.265 | 0.331 | 0.320 |
| ▲ 大学エンジョイ群 | 0.241 | 0.298 | 0.485 | 0.279 | 0.329 | 0.226 | 0.170 | 0.312 | 0.366 | 0.127 | 0.401 | 0.248 | 0.271 | 0.206 |
| × 入学後燃え尽き群 | 0.150 | 0.182 | 0.190 | 0.165 | 0.213 | 0.217 | 0.120 | 0.157 | 0.150 | 0.154 | 0.113 | 0.164 | 0.137 | 0.112 |

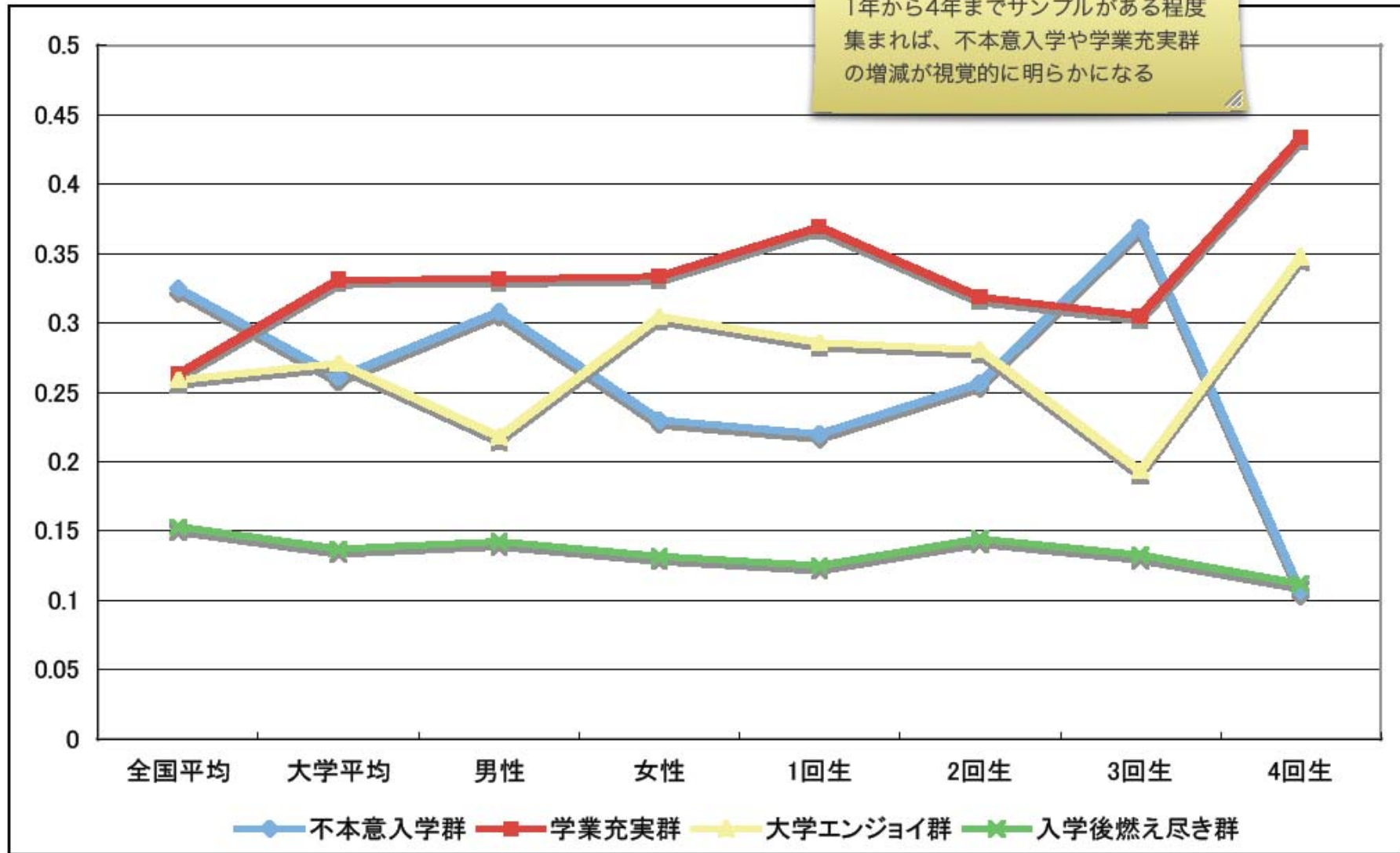
不本意入学群の多い大学は第一志望学生を増やす努力を
 入学後燃え尽き群の多い大学は余裕を持って学生を育成する
 プログラムを

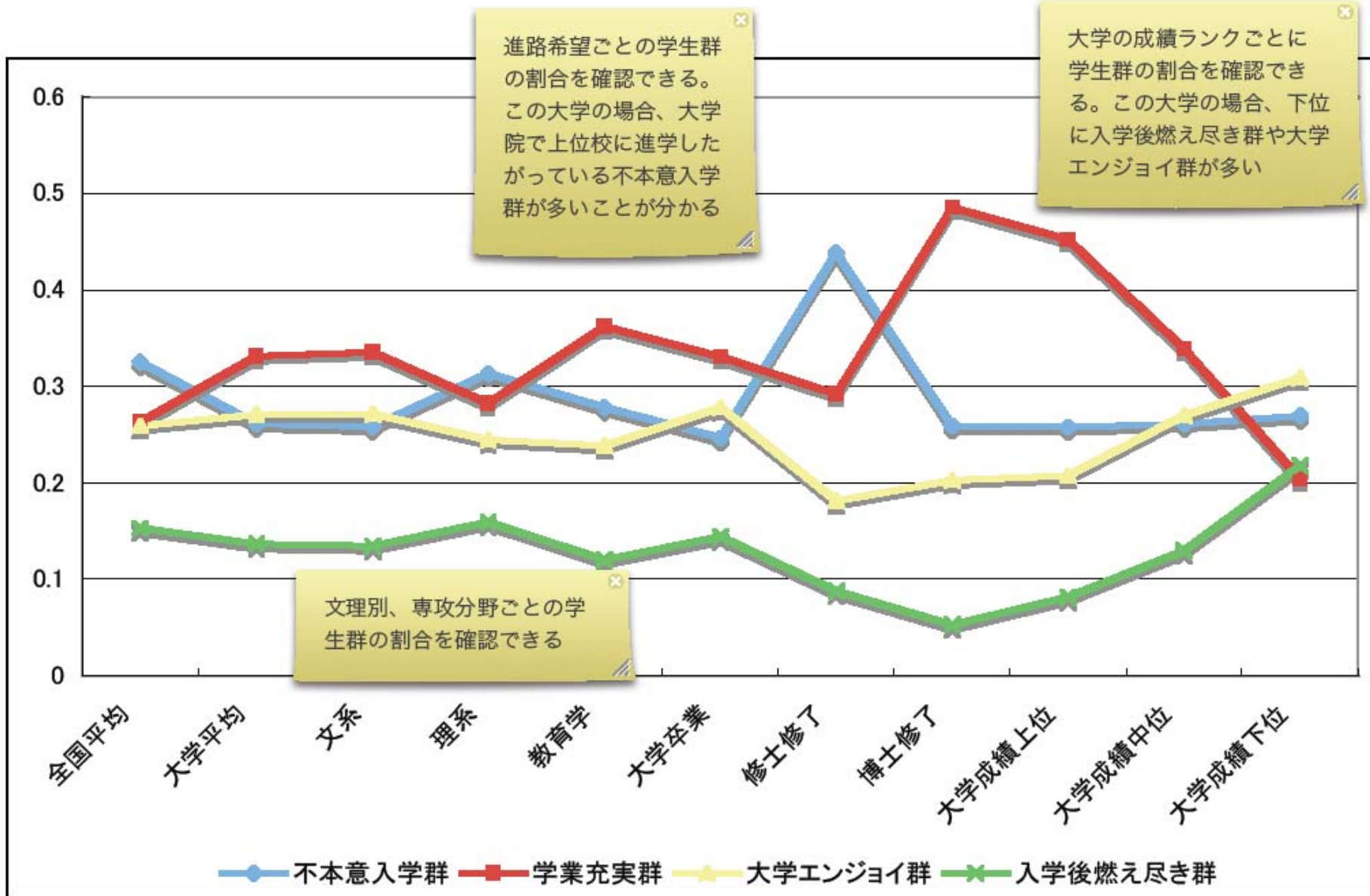
M大学の全体的特徴

| 項目/学生群 | | 不本意入学群 | 学業充実群 | 大学エンジョイ群 | 入学後燃え尽き群 |
|--------|------|--------|-------|----------|----------|
| 全国比較 | 全国平均 | 0.325 | 0.263 | 0.259 | 0.153 |
| | 大学平均 | 0.261 | 0.331 | 0.271 | 0.137 |
| 性別 | 男性 | 0.308 | 0.332 | 0.218 | 0.143 |
| | 女性 | 0.230 | 0.334 | 0.305 | 0.132 |
| 学年 | 1回生 | 0.220 | 0.369 | 0.286 | 0.125 |
| | 2回生 | 0.257 | 0.319 | 0.281 | 0.144 |
| | 3回生 | 0.369 | 0.305 | 0.194 | 0.133 |
| | 4回生 | 0.107 | 0.433 | 0.347 | 0.112 |
| 専攻分野 | 文系 | 0.259 | 0.335 | 0.271 | 0.135 |
| | 理系 | 0.314 | 0.282 | 0.244 | 0.160 |
| | 教育学 | 0.278 | 0.362 | 0.239 | 0.120 |
| 進路希望 | 大学卒業 | 0.247 | 0.331 | 0.278 | 0.144 |
| | 修士修了 | 0.438 | 0.292 | 0.181 | 0.088 |
| | 博士修了 | 0.259 | 0.485 | 0.203 | 0.053 |
| 大学成績 | 上位 | 0.258 | 0.452 | 0.208 | 0.082 |
| | 中位 | 0.261 | 0.339 | 0.270 | 0.130 |
| | 下位 | 0.269 | 0.204 | 0.309 | 0.218 |

全体的に不本意入学群が少なく、学業充実群が多い。文系の学業充実群が多いが、理系の不本意入学群が多いのが目立つ。
修士卒に不本意入学群が多く、博士修了希望に学業充実が多い。大学成績下位にエンジョイ群と燃え尽き群が多い。

1年から4年までサンプルがある程度集まれば、不本意入学や学業充実群の増減が視覚的に明らかになる





学習プロセス評価からの知見

日本の学生の大学での関わり（EngagementとInvolvement)の少なさ
新しいペダゴジーによる授業などの経験の低さ



ラーニング・アウトカムへと結び付かない

今後の課題

研究上

- × カレッジインパクト I-E-Oモデルの内部効果分析にむけての
安定的データの蓄積により学生研究の蓄積
- × JFS(新入生調査)とJCSSを結びつけることによりI-E-Oの関係が
より解明される

実践上

- × 教育プログラムの改善とラーニング・アウトカムへの結びつきを
どうするか
- × 個別大学によって違う学生の個性、それをどう教育改善に結び
つけるか ベンチマークの利用

× ご清聴ありがとうございました

× 質問等は

ryamada@mail.doshisha.ac.jp

にまでお願いいたします